

個人や企業からさまざまな絵本の寄贈をいただいています

個人や企業の皆様から、「までのりの里のこども園」や交流センター「ふれ愛館」に、毎年たくさんの絵本や児童書を寄贈していただいています。子ども達の心豊かな成長を願い、読書環境の充実を応援して下さる皆様、本当にありがとうございます。さまざまな視点から選ばれた本が加わることで、蔵書がより充実しています。

本を贈っていただいたお二人に、寄贈に込めたお気持ちを聞きました

思いが行き違い、互いに悪意がないのに関係を悪くしてしまう…今起きている戦争にも、日常的なできごとにもあることです。相手の気持ちを理解すること、思いやりを持って人と関わることの大切さを教えてくれる絵本に出会い、子ども達に贈りたいと思って寄贈させていただきました。私も小さな頃に読んだ絵本がずっと心に残っています。受け止め方は一人ひとり違うと思いますが、幾人かでも心の内に届いてくれたらな…と願っています。



長谷川圭子さん(宮内)

保育教諭時代、受け持つ子ども達の興味や、季節に合わせて読みたい絵本を購入しているうちに、自宅の本棚がいっぱいになっていました。こども園を退職し、手元に置くより園で活用していただくとうと250冊ほど寄贈させていただきました。絵本は、言葉の発達を促すと共に、登場する動物に興味を持ったり、人との関わり方を学んだり、感性も育んでくれます。子ども達が絵本を大好きになってくれたらうれしいです。



齊藤ひろみさん(深谷)



こども園の貸し出しコーナーにて

子ども達は、毎日のように、それぞれ好きな本を選んで借りて帰ります。自分が楽しんだ後は、交換して読んだり、先生や上の子を真似て読み聞かせをしたり、「ここが面白かった」と感想を共有したりしています。園でたくさん借りられて、さらに南相馬図書館(移動図書館)の本も借りられて、とてもいいですね。子ども達は本当に絵本が好きで、私も絵本や本のある暮らしを楽しんでいます。

保護者の声



まさか 眞柴優佳さん(飯樋町)

年少児の一楓(いぶき)君、年長児の紬(つむぎ)ちゃん、卒園児で小学4年生の鳳士(ふうと)君のママに聞きました。優佳さん自身も本が大好き。子どもの頃、サンタさんのプレゼントも毎年、本だったそうです。

「おはなし会」で読み聞かせ
読書アドバイザー
長正サツキさん(大久保・外内)

令和3年度から、読み聞かせをさせていただいています。聞き手となる子ども達の年齢や興味・関心に合わせて絵本を選び、交流を楽しみに足を運んでいます。いつうかがっても本を開くと子ども達の目が輝いて、聞き手が上手なことに驚かされます。読み聞かせが浸透してすこいなど先生活方を尊敬しています。現代は、昔と違って、スマートフォンなどでメディアに触れ、映像を見る時間が長くなりがちです。だからこそ「本」の楽しさを知ってほしいし、おすすめしたいと思えます。お母さんが本を好きになったら、子どもも本が好きになります。ぜひ子どもさんと一緒に絵本の楽しさを共有していただけたらと思います。



飯館村は以前から本に親しむことを大切に読書推進活動に取り組んできました。現在は交流センター「ふれ愛館」にて図書の新着出しを行っています。しばらく読書から遠ざかっていた方も改めて本に触れ読書の楽しさに浸ってみませんか。

園の読書活動について園長先生に聞きました

**までのりの里のこども園の読書活動
先生方の熱意と工夫が大きな成果を生んでいます**



までのりの里のこども園 園長 三品勝彦 先生

令和3年度に飯館村教育委員会が重点施策に「絵本に親しむ」ことを掲げました。これを受けて、園は、それまで培ってきた絵本の活動に、さらに一歩踏み込んだ形で取り組むことになりました。デジタル機器が身近にある現代の子ども達。スマートフォンに子守りをさせる「スマホ子育て」などという言葉も聞かれます。映像メディアに夢中になり加速する活字離れも課題となっています。そうした中、全国学力テストの数学のテストで、文章題を読み進め、段階を踏んで回答を導くような問題が出されるようになりました。また、大学入学試験の数学の問題にも、リーディングスキルを問う出題がみられます。このような背景を持って、絵本に親しむことからはじめたい。本に親しむことから読む力、考える力を身につけていこうという故・遠藤哲教育長の発案でスタートしたのが「絵本に親しむ」重点施策と聞いています。スキヤモン発達曲線(身体発達を4つの型に分けて、0〜20歳までの発育量の推移をグラフ化したもの)によると、子どもの脳は6歳までに急速に発達していきます。この時期に、よい絵本を与えていくことは、読む力、考える力を養う上で非常に大切であると考えられます。園の先生方は、「絵本に親しむ」ための優れた手法を次々に考え出し、実行してきました。読み聞かせの講座で、考える力を養う発問の仕方、先生方が親子役で実演したり、読んだ絵本の感想を保護者が伝え合う「読み聞かせの木」を考案したり、素晴らしいアイデアを形にして、「一歩一歩」絵本に親しむ園の姿が作られてきました。先生方が本気で考え進めてきたことが、確かな成果を生み、今回の受賞につながったものと考えています。